

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

分担研究報告書

分担研究：医療安全上の課題の整理

研究分担者 門野 泉

愛知県医療療育総合センター発達障害研究所障害システム研究部 非常勤研究員

/ 同センター中央病院 リハビリテーション室長

## 研究要旨

標準規格製品の導入支援に活用する目的で、自院の看護師に対し習熟度に関するアンケート調査を行った。標準規格製品使用の手技習熟には1ヶ月程度を要したという回答が最も多かった。慣れない期間が長期にわたる場合や、慣れても問題を感じている場合もあり、周囲からの心理的支援や、問題解決のプロセスへの取り組みを継続することが重要と考えられる。手技の定着には情報共有が必須であり、患者家族をはじめ、地域を含めたネットワークの構築が必要である。

### A. 背景

愛知県医療療育総合センター中央病院（以下、当院）では2019年の6月より標準規格製品（ISO80369-3）に関する情報を収集した。導入に際しては、手順の検討、職員教育、患者教育、食事内容の調整、薬剤の検討、在庫管理など、様々な問題が生じることが考えられ、部署を超えた連携が必要であると医療安全室が判断し、ワーキンググループを立ち上げた。当院では、入院患者の約60%が胃瘻からミキサー食を注入している。このミキサー食注入の手技が旧規格製品に比べ煩雑になるのではないかと懸念が当初よりあった。そこで栄養サポートチームが実験を重ね、いくつかの工夫された手技を提案した。提案された手技は、ワーキンググループメンバーを中心に、職員全体へと周知された。また、患者への情報提供については、配布資料や掲示資料を作成し、約6ヶ月にわたり外来職員を中心に説明を行った。このような準備を

行った上で、2020年11月実際に使用を開始し、2021年1月には標準規格製品への完全移行が完了した。

完全移行後も各職員が手技の定着に向けて努力を続け、致命的な問題は起こっていなかった。その後、旧規格製品の出荷期間が延長されることが分かったが、当院では標準規格製品の使用が定着し始めていたため、旧規格製品の使用は再び行わないことをワーキンググループにおいて決定した。

当院では比較的早期に完全移行に至ったが、全国では同時期に同じような取り組みが行われている施設は少なかった。患者や他施設の事情を聞いてみると、旧規格製品との使用感の違いに不具合を感じている場合もあったが、まだ使用したことがないにも関わらず、「標準規格製品は使いにくい」という風潮を感じて使用を躊躇しているという声も多く聞かれた。

そこで、実際に標準規格製品の使用に慣れるにはどのくらいの期間が必要なのかを

調査し、他施設での標準規格製品導入に役立てることを考えた。

#### B. 研究方法（実験の対象および方法）

2020年8月、当院で標準規格製品を日常的に使用する看護師162名に対し、アンケート調査を実施した。質問項目は、習熟の程度やそれまでにかかった期間、工夫した点や問題があると感じていることについて問うものであった。

#### C. 研究結果

結果を図1に示す。アンケートの回収率は100%であった。

習熟の程度について、「慣れて全く問題がない」と回答した割合は54%、次いで「慣れたが一部問題がある」が33%、「徐々になれてきている」が13%であり、「慣れていない」と回答した看護師はいなかった。

習熟までにかかった期間について、「1ヶ月以内」が47%と最も多く、次いで「1週間以内」が22%、「2ヶ月以内」が14%、「2ヶ月以上」が8%であった。

習熟までに工夫した点として、「他の職員の手技を参考にしながら自分が実施しやすいように改良した」という回答が多かった。独自にアイデアを思いつき、職場で共有されている例もあった。問題点として挙げたのは、製品の接続部を洗浄する困難さを訴える回答が最も多かった。またシリンジに薬剤が残ってしまう、薬剤でコネクタが閉塞してしまう、等、薬剤注入に関するトラブルも散見された。食具や食形態の工夫が必要であると感じている看護師もいた。

#### D. 考察

アンケート結果より、標準規格製品に慣れるには、1ヶ月程度を要するケースが多かった。職場で話し合いながら各自の方法が定着していく例が多いことから、情報共有やコミュニケーションが重要であると考えられる。一方、2ヶ月以上を要する例もあり、こういった場合は周囲からの更なる支援が必須となる。今回のアンケートは完全移行から6ヶ月以上経過した段階で実施されているが、慣れて全く問題がないという回答は54%にとどまった。手技には慣れても問題を感じながら業務を行っている看護師が33%であり、今後も課題を共有し解決に至る過程を繰り返す必要を感じた。

最も困難が訴えられた洗浄しにくさや汚れにより接続部が固着する問題については、現在は専用の器具等を使用して対応している。

今回の調査では、自身の運動器痛についての回答は見られなかった。習熟度に依存する可能性が最も考えられるが、看護師は一勤務帯に行う注入の数は多いが勤務を離れると手技は行わないため、ある程度の空白時間が存在していることも要因として考えられた。また、注入を行いやすくする目的で白湯を活用している例が多く、ミキサー食の粘度の微調整にも利用されていた。患者の健康上の問題は見られていない。

当院の看護師が経験した問題点や工夫を他施設に情報を発信することで、地域や全国で標準規格製品が定着することに繋がると考えている。当院では、愛知県重症心身障害児者療育ネットワーク、JACHRI（日本小児総合医療施設協議会）といった日頃より関係性を培っているネットワークで、情報を共有している。他施設で起こった問題

を当院で共有することもある。こういった広域での情報共有が、今後の標準規格製品の定着や安全な使用に向けて必須であると考えている。

また、患者の支援については、当院が独自に行っているネットワークシステム「このはネット」を利用して相談を受けている。さらに、標準規格製品の使用のためのグループ外来を実施し、標準規格製品で注入しやすいミキサー食、製品の洗浄など、病院や患者家族同士でアイデアの共有を行った。イベントも企画し、楽しく前向きに取り組めるような工夫を行っている。また、患者をとりまく環境には学校や介護施設も含まれ、こういった周辺施設との情報共有も望まれる。

標準規格製品は、特にミキサー食の注入が多い施設や患者において、円滑に導入されない場合がある。問題点を明確にし、周囲の支援が得られるような体制を整えることが重要である。また、導入後も、問題点の抽出、解決法の立案、実施、モニタリング、といった過程を繰り返し、安全な使用の継続に至ることを認識する必要がある。

## E. 結論

標準規格製品の使用の習熟には1ヶ月程度を要するケースが多く、2ヶ月以上に至ることもある。職場、地域をはじめ広域での情報共有も重要であり、今後も経過の観察が必要である。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

・門野泉. 障害児者医療を専門とする地域病院での工夫. 第25回 PEG・在宅医療学会学術集会 シンポジウム02「誤接続防止コネクタ導入の現状と問題点」(シンポジスト) 2021.9.18

・門野泉. 障害児(者)専門病院における新コネクター(IS080369-3)導入の経験. 第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会ワークショップ06「経腸栄養分野相互接続防止新コネクター (IS080369-3) のMIRAI-新規格への切り替えで発生した課題と対応策-」(シンポジスト) 2022.6.1に予定

図1

